



過去問題集の活用法

●受験生のみならず、志望校の過去問の取り組みは順調ですか？書店に行くと、大学・高校・中学受験の過去問のみならず、英検の過去問・漢検の過去問・その他資格試験の過去問……多くの過去問が並んでいますね。よって、「過去問ってとても大事なんだ」ということはみなさんも認識しているはずですが、しかし、そう認識しているにも関わらず、残念ながらきちんと進められていないケースも見受けられます。「敵を知り己を知れば百戦殆うからず」という言葉にも表されているように、過去問は「敵を知る」ための絶好のチャンスであり、きちんと取り組むことで正しく「敵を知る」ことができ、合格にグッと近づくことができます。

●では、きちんと過去問に取り組むにはどうすればいいのでしょうか。中学三年生や小学六年生のみならず、過去問と並行して「副教材」にも取り組んでいますよね。副教材と同じ感覚で過去問に取り組んでいませんか？それではいけません。「副教材」は、野球でいえば「素振り」や「キャッチボール」のようなもの。でも素振りやキャッチボールだけでは試合に勝つことはできません。練習試合をしないと、本番で必要とされる感覚が身に付けられないですよ。過去問はまさに練習試合なのです。したがって、副教材と過去問は取り組み方を変えましょう。とはいえ、これまでの学習に加えて、新たに過去問を追加することは負担になりますし、どのように取り組んだらいいのかよく分からないという人もいますでしょう。そのような人は次を参考にしてください。

●具体的な取り組み方① 学習開始は夕食後で、結



局部活動をしていたときと変わらない人もいるのではないのでしょうか。そのような人は、ぜひこれまで部活動をしてきた夕方の時間を使いましょう。創学舎の授業がない、月・火・木・金の中から三日を過去問にあててください(理社を受講しているみなさんも可能ですよね)。そうすれば、一週間で最低一年分の過去問を解くことができますはずですよ。

●具体的な取り組み方② 過去問を解くときには、きちんと試験時間を守って取り組みましょう。本番の入試では時間に追われながら問題を解くことになりません。でも、みなさんは時間に追われながら問題を解く機会は模擬試験だけになっていませんか。それではなかなか「スピード感」が身につけられません。過去問も本番の緊張感で取り組みましょう。

●具体的な取り組み方③ 過去問を解くと得点が出るので、ワクワク感がありますよね。でも、得点を出したらそこで終わり、となっていないですか。英国は全く同じ問題は出ませんが、その形式・難易度と同じものは過去問しかありません。数理社は同じ知識や考え方を問う問題が繰り返されます。大切なのは、過去問を解き、解説をよく読んで、志望校の出題の仕方や考え方や傾向をつかむことです。先にも述べましたが、「敵を知る」ことが大切です。

●具体的な取り組み方④ 創学舎に通っているみなさんは、実は過去問の取り組み方を中学一年生(もしくは小学生)から学んでいます。それは、模試の解き直しのときです。模試の解き直しのときは、問題に○・×・△をつけて×・△の解き直し、そして解答解説にマーカーを引きますよね。手順はきちんと身につけているはず。過去問に取り組む場合にも同じように解き直しをしましょう。

●いろいろと取り組み方を挙げましたが、一番大切なことは自分で決めた日に必ず過去問を進めるということです。「今日は気分がいいからいつもより多く解こう」「今日は天気が悪いからやる気が出ないな

あ」などということはないように。どんなときでも日々コツコツと取り組むことが大切です。やる気があるから行動するのでありません。行動することによってやる気がわいてくるのです。頑張れ、受験生！

(上條)

二〇一五年、ふたつのワイルド

●毎秋に行われる中学・高校の吹奏楽コンクールの全国大会は、一県に二校の代表というしくみではない。県大会で選ばれた代表校が、次の地方大会ではさらに三校に絞られ、全国大会に出場できるのはわずか三〇校である。そのうえ、吹奏楽の世界にも、常連校という存在があり、全国大会初出場の学校があったとしても、地方大会ではすでに実績のある強豪校だというのが常識である(私も、高校の吹奏楽部で三年間地方大会まで進んだが、強豪校の壁は厚く、全国大会には出場できなかった)。

●それだけに、二〇一五年に長崎県の私立活水(かつすい)女子高校吹奏楽部が、初めて全国大会に出場したことは「奇跡」と呼ばれた。なぜか。以前の活水高が、部員不足で県大会にすらほとんど出場していない全くの無名校だったからだ。それが、この年の四月に、福岡の強豪校を育てた指導者が新たに顧問に就任すると、その四か月後には、超難曲を見事に演奏して県大会を突破してしまった。さらに、続く九州大会でも二十六校の中から代表として選ばれ、ついに全国大会にまで歩を進めたのである。たとえるなら、去年まで部員二十人くらいだった吹奏楽部が、数カ月の練習で市立柏高校のようなすごい演奏をしているようなものである。まさに前代未聞の出来事だ。

●実際に、活水の全国大会の録音を聴いてみた。常連校ならば、演奏技術も高く、大人びた落ち着いた音のある深い表現を目指すだろう。それはそれで、聴く醍醐味をもたらしてくれる。しかし、活水の演奏は、

粗削りだが、「楽しい！」という気持ちが爆発しているのがよく伝わってくる。それが、大きな魅力だ。曲の後半、生徒が高揚して、ものすごい速さの演奏になっていくのだが、指導者は指揮をしながら、無理におさえようとせず、「どんどん行け」と合図したそう(音楽性より生徒の気持ちを優先したのである)。その結果、聴衆も一緒に興奮しているのが、演奏終了後のざわつきとやまない拍手でよくわかる。



●そして、二〇一五年の、もう一つの奇跡。それが起きたのは、実は、この東葛地区である。主役は、松戸市立小金中学校吹奏楽部。この年、小金中にも、東葛地区で強豪校の指導を歴任してきた指導者が赴任した。すると、早くもその年に、創部以来、初めて県大会を突破し、次の東関東大会でも金賞を獲得するという快挙をなしとげた。その勢いは止まらず、二〇一六年には全国大会へ出場。そして、今年も全国大会へ二年連続出場を果たした(うん、金賞を獲得し頂点に立った)。ちなみに、東関東大会は千葉・神奈川・茨城・栃木の四県の代表を、小金・松戸第四・酒井根と、すべて東葛地区の中学校で独占した。千葉県は全国屈指の吹奏楽激戦区なのである。全国では無名だった学校が、たった三年間でこれだけの実績を残したということ、活水高校とやらんで話題となっており、小金中の名前は急速に広まりつつある。

●しかし、この両校の活躍を奇跡と書いたものの、本当に奇跡なのだろうか。何も練習しないのに、全国大会へ出場したら、それは奇跡だろう。しかし、有力な指導者に訓練を受けているとはいえ、活水高も小金中も、ものすごい練習を積んでいるはずである。特に、演奏技術が劣っていた活水は、練習量を重視し、休日は十二時間以上練習していたという。

そして、強豪校は強豪校で、その伝統を守るために、やはり猛練習を積んでいるはずだ。

●練習して練習して、また練習する。アドバイスされたらその通りに修正する素直さも大事だ。その点で、部活と勉強は驚くほど似ている。そして、それがもたらす結果は、「奇跡」ではなく「必然」と呼ぶのがふさわしい(活水高「ルイ・ブルジョワの賛歌による変奏曲」と小金中「シネマ・シメリック」の演奏はYouTubeで検索して聴くことができます)。(関)

**やればやるほど頭が悪くなる勉強！
やらぬ方がまだいい！そもそもきみが
がやっているのは勉強じゃないし……。**

●勉強すれば、学べば必ず頭は良くなります。少なくとも、情報を理解したり、考えを整理したりするのは大いに役立ちます。勿論受験にも有利です。

●但し、親も生徒も確認していただきたいことがあります。頭の良さにも、いろいろあるということですから。成績が良いことを鼻にかけ、成績が悪い人を馬鹿にするのは頭が悪いのです。空気が読めないのは頭が良いとはいえません。秘書に暴言を吐き続けた女性のニュースが出ましたが、あれは頭が悪いのです。自分の子は(自分は)どうか、振り返ってみることは必要です。

●話を勉強に戻します。気づいていない人がほとんどですが、やればやるほど頭が悪くなる勉強というのがありません。いや、これはそもそも勉強ではない。頭を悪くする無駄な作業というべきもので、やればやるほど不幸になります。それを説明しましょう。

●中学生のワークによくみられる例ですが、①のように、答えを書き込んで、ひたすら答えをおぼえる人がいます。意味は、全く分かっていません。ただ答えをおぼえるのです。ひどい場合には、問題文す

③漢字書き取り問題

- ① 二つの色の違いは全くビミョウだ。(微妙)
- ② マンネリズムからダツキヤクする。(脱脚)
- ③ リンカクのはっきりした顔立ち。(輪郭)
- ④ クジユウに満ちた選択を迫られる。(苦渋)
- ⑤ もはやキセキを望む以外にない。(奇跡)

①中3 公民ワーク例

(1)民事裁判で、訴えた人を何というか。	原告
(2)民事裁判で、訴えられた人を何というか。	被告
(3)犯罪事件を捜査して、被疑者を裁判所に起訴する人を何というか。	検察官

②中3 英語教科書

You look happy. Good news?
I've just received a letter from my friend Taro.
We've been good friends for more than three years.

とで頭も確実に悪くなります。まさに、時間をかけて、不幸を自ら招いているのです。

●言葉は、意味と読み方と形が全部そろって、言葉となります。(それに実感、実体験が加わればさらに精度を増します。)ところが①の例で挙げた生徒はこの三つがそろっていません。意味が分からないまま、下手をすると読み方も分からないまま答えをおぼえている。これでは成績は伸びません。さらに悪いことに、意味もわからず答えをおぼえるという脳の習慣が、何年も何年もかけて作られていくのです。実社会に出れば、様々な資格を取ることを要求され、文書の作成も必要になります。良し悪しはともかく、こういう現実に対応していくためにも、脳の習慣を変えていかなければなりません。

●学ぶことに終わりはありません。仕事柄、教育・哲学・心理学などの本を読みますが、自分はいくつた分野についての知識、認識は極めて薄弱と思えます。強い興味を持って読んでいくというより、やむを得ず読んでいくからというののも一つの要因かもしれません。ただ、分かったことは、学ぶときの頭の働きについて述べてある本はほとんどないということです。で、未熟ながらもこうした文を書いているというわけです。

●さて、②に触れます。英文を音読することは大切ですが、意味も分からないままひたすら音読する人もいます。また英文を暗記することも大切ですが、音読もできず意味もわからないままひたすら暗記する人もいます。これも頭を悪くします。(一定の言語能力があればひたすら音読をしていくうちに、自然に頭の中で英文の構造が分かるようになり、意味がとれるようになるのも事実ですが、一定の言語能力が前提です。)次に③です。意味も分からないままひ

たすら書いて練習する生徒も少なくありません。これも頭を悪くします。

●再言しますが、学ぶことは大事です。そして学ぶことができるようになるためにも、今やっている勉強を利用して、文字と音と意味を一致させて理解する脳の習慣を作ることが必要です。それができれば情報を整理・記憶する能力も上がります。学校や塾で学ぶ内容は、その全てを実際の生活で使うわけではありません。しかし、それを学ぶことで鍛えられる能力というものがああり、これが生きる上で大きな助けになります。そして、実社会に出たあとも同じように、いやそれ以上に学ぶことが必要です。例えば私は同じ職場で働く人のおかげで、心理学の本を読み、自分が神経症的気質をもつことが分かりました。アスペルガー的要素も一部あることも理解しました。生徒を理解したり、他者と関係を作ったりするときに、少なからず役に立っています。更に例を続けます。

●法学部に行った人は憲法についての認識はあると思います。しかし、作成に当たった米国人は三人とも弁護士であったとか、九条には、幣原首相の意向があったとか、知らない人がほとんどです。私はダウン症の子が、こわかった。付き合ってみると、団結心が強く、人懐っこいのが分かってホッとした。金澤翔子さんの書には癒されている。貧困で、大学の看護学部に行くのをあきらめらる必要はない。無料で卒業する方法はある。

●学びましょう。知りましょう。考えましょう。そのためにも、勉強の仕方、頭の使い方を変えていきましょう。まずは次の代を担う子どもたち！微力ですが私も頑張ります。(小林)

▼▲継続希望の方へ▲▼

▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送りいたします。
▶在籍していた教室までご連絡ください。